

# 岡山大学 MONTHLY DIGEST

VOL. 49  
2020.5

TOPICS

1

## THE大学インパクトランキング2020が公表され、岡山大学が国内9位に！



イギリスの高等教育専門誌「Times Higher Education (THE: ティー・エイチ・イー)」による、大学の社会貢献の取組みを国連SDGs(持続可能な開発目標)の枠組みを使って可視化したランキング「THE大学インパクトランキング2020」が4月22日に発表されました。本学は、エントリーした4つのゴール(SDG3 すべての人に健康と福祉を、SDG11 住み続けられるまちづくりを、SDG16 平和と公正をすべての人に、SDG17 パートナリシップで目標を達成しよう)の全てで200位以内にランクインし、対象となった世界766大学(うち国内63大学)の中で、総合ランキングにおいて国内9位、世界201-300位となりました。中でもSDG11では、本学の地域でのたゆまぬ実践活動が高く評価され、国内2位、世界83位にランクされました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id9365.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9365.html)

TOPICS

2

## 槇野学長らと理系大学院生とのオンライン懇談会を開催 コロナ禍における研究体制の構築に活用

槇野博史学長らは5月15日、新型コロナウイルス禍における学生の声を聞き、今後の研究活動体制の構築に活用するため、本学理系3研究科の大学院生14人とオンライン懇談会を開催しました。

学生は、「研究が進められず、図書館も休館しており文献も思うように集まらない」、「必要なデータが集められず1年を棒に振ってしまうだけでなく、絶滅危惧種保護のための取組みに大きな影響をおよぼす」といった厳しい現状を話しました。大学への要望として、なるべく早い研究活動再開を求めたほか、「学位授与の基準を柔軟にしてほしい」、「オンライン授業のノウハウを共有できる場がほしい」などの意見が挙がりました。新型コロナウイルスの影響下においてもよりよい研究体制を整えていくため、今後も継続して学生の意見を取り入れる場を設けていく予定です。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id9391.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9391.html)

Pick up!

### 岡山大学病院立体駐車場「鹿田パーキングモール」がオープン



岡山大学病院の敷地内に、立体駐車場等のアメニティモール「鹿田パーキングモール」が5月1日、オープンしました。立体駐車場には302台分の駐車スペースと約100台分の駐輪スペースを確保し、電気自動車用充電器も2台設置。モールには、コンビニエンスストアと調剤薬局2店舗が入居するほか、コミュニティルームもあります。バス待合時などにゆったり過ごせるイートインスペースも併設しています。

災害時には、モール全体がトリアージ機能を持つ設計になっています。建物全体がユニバーサルデザインを採用しているほか、多機能トイレや授乳室、キッズコーナーも設置しており、利用者の利便性と安全性に配慮した空間に生まれ変わりました。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id9329.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9329.html)

TOPICS

3

## 大学院医歯薬学総合研究科の平木研究教授らが 第15回村川・難波技術奨励賞を受賞

5月26日、公益社団法人山陽技術振興会の村川・難波技術奨励賞に、医学部・工学部・地元企業で開発中の「CTガイド下IVR\*用穿刺ロボット“Zerobot”」が選ばれ、開発者である大学院医歯薬学総合研究科の平木隆夫研究教授、大学院自然科学研究科の松野隆幸准教授、大学院ヘルスシステム統合科学研究科の亀川哲志准教授、イメージング&ロボティクス株式会社の谷本圭司社長の4人が受賞しました。近年、がん治療において、CTを用いた生体組織診断や、針を突き刺して焼灼・凍結を行い、体への負担を少なくする低侵襲治療の普及が進んでいますが、これらの治療方法には、術者が頻繁に放射線の被ばくを受けるという課題が存在しています。本プロジェクトはこの課題のクリアを大きな目標として、2012年にスタート。産学連携・医工連携体制を構築しつつ、ロボット製作や模擬試験・臨床試験に取り組み、現在では被ばく量や安全性のみならず、医師の手による穿刺とロボットによる穿刺の精度比較をする医師主導試験の開始を目前とする段階に至っています。

\*IVR：\*Interventional Radiology（日本語名：画像下治療）

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id9412.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9412.html)



TOPICS

4

## 宝田研究教授がAMED「令和2年度再生医療実現拠点 ネットワークプログラム（技術開発個別課題）」に採択



大学院医歯薬学総合研究科の宝田剛志研究教授が5月13日、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の「令和2年度 再生医療実現拠点ネットワークプログラム（技術開発個別課題）」に採択されました。同プログラムは、iPS細胞などを使った再生医療について、オールジャパン体制で研究開発を推進し、日本発のiPS細胞技術を世界に先駆けて臨床応用することを目的としています。

宝田研究教授はトランスレーショナル・リサーチの分野での採択となり、「自己凝集化技術によるヒトiPS/ES細胞からの立体軟骨組織の創出」（研究期間：令和2～3年度）という題目のもと、研究開発代表者を務めます。採択を受けて宝田研究教授は、「この採択課題は、同拠点プログラムにおいて前回採択された課題『ヒト多能性幹細胞に由来する分化指向性間葉系前駆細胞集団の選別単離方法の開発』を発展させた内容になります。より一層精進を重ねる所存です」とコメントしています。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id9388.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id9388.html)

PRESS  
RELEASE

## 膵臓がんで「線維化」が発生するメカニズムを解明 難治性がんの新たな治療戦略開発へつながる成果

大学院ヘルスシステム統合科学研究科の狩野光伸教授と大学院医歯薬学総合研究科の田中啓祥助教らの研究グループは、東北大学との共同研究で、独自の三次元培養技術を開発し膵臓がんのミクロな組織構造を試験管内で再構成することに成功し、がん組織中で線維が作られ悪化するメカニズムを明らかにしました。本研究成果は、4月30日付で英国科学雑誌「Biomaterials」のオンライン版に掲載されました。

膵臓がんの組織には線維化が起きやすく、抗腫瘍免疫や抗がん剤の効果を弱めているといわれます。しかし、患者間で線維化の程度はさまざまです。こうした違いが病態の進行や治療の効きやすさに及ぼす影響については、適切な実験モデルがなかったために解明が遅れています。本研究では、まず膵臓がん患者の標本からがん組織を解析し、患者間での線維化の程度の違いを明らかにしました。そして開発した三次元培養技術を応用し、線維化の程度がさまざまな膵臓がん組織を、試験管内で自在に再現することに成功しました。本研究を基盤に、膵臓がんにおける線維化のメカニズム解明や新たな治療戦略開発への貢献が期待されます。

参考 [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id727.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id727.html)

